



#### [意見交換会（情報交流）のまとめ]

##### ① 企業が大学生に求める力（意見交換／情報交流）

これまでの意見交換／情報交流での再確認を含め、基礎学力や社会人基礎力の育成、産業界からの意見を反映した教育内容の導入などの継続的な検討と学生が大学で学ぶ意義や目的を見出すことの大切さが示された。

学生に目を向けると、高校での学習内容や学習スタイルの違い、入試区分などによる入学生の多様化が進み、入学後は画一化した学習モデルでは対応できない現状がある。また、学生の多くは社会との接続を意識することや体験する機会が少なく、卒業後の進路（業界、職種など）を具体的に描くことが難しいと考えている。

また、就職活動の早期化、インターンシップとの連携による就職活動など学生を取り巻く就職環境も大きく変わっていることから、早期から継続的に学生の成長や卒業後の進路を意識した科目の配置などの対応が大切と考える。

##### ② インターンシップの意義（大学・学生にとっての意義／企業等にとっての意義）

産業界等との協力・連携を行い、学修の質を向上させる機会としてインターンシップの充実が求められる。学生自身が自ら学び社会的意味を理解することに加え、産業界の現状（喫緊の課題）や働き方改革等、変わる働く環境、多様な働き方を知り、自身のキャリアビジョンを描ける機会とする。

#### 4. まとめ（本学の果たすべき役割）

本学では「建学の理念」に基づき大学教育を行い、これまで多くの卒業生を社会に送り出してきた。少子高齢化が進展する中、日本の科学技術・国際競争力の強化・育成・支援こそ大学の重要課題である。その解決は、「民間企業の人材養成を学校教育と連携を図りながら知的生産活動を支援する」とされている通り、その育成支援は急務であると認識する。そこで、企業アンケートや本学卒業生が多く関わる産業界との定期的な情報交流の場を設定し、「産学連携による人材育成」の観点から、幅広く教育・人材育成に関する意見交換を行うことで、新たな教育プログラムの開発（本学の強みや特色を踏まえ、他機関と連携した教育を提供）ができると考えている。今回の調査では、学生の多様化、産業界から求められる学生への希望（要望）をもとに、①本学のキャリア教育の位置づけを明確にし、体系化する必要があること。②現在は初年次にキャリア教育科目が配当されているが、4年間を見通し、学生の成長と卒業後の進路を意識した科目の配置が必要であること。③起業をテーマとした学習内容についても取り入れる必要があること。以上を今後の検討課題とし、社会と連携した教育課程等の構築、ならびに、インターンシップ、企業連携学習、社会人講師による諸講座等、学生の主体性を引き出し、社会を知り、成長できる学びの仕組み作りと充実したキャリア教育の実践が必要であるとする。